

## 伊賀市

# パイロット事業に関する報告書

平成 29 年 3 月 31 日

## 目次

1	パイロット事業の概要	3
1.1	パイロット事業実施の目的	3
1.2	パイロット事業選定の背景	3
1.3	実施概要	3
2	実施に向けた準備・調整	4
2.1	パイロット事業の企画	4
2.2	パイロット事業の事前準備・調整	4
2.3	市内外へのPR	4
3	事業効果の検証	5
3.1	当初の期待効果	5
3.1.1	伊賀への愛着と誇りの醸成	5
3.1.2	その他の副次的効果	5
3.2	効果測定の方法とその結果	5
3.3	効果の検証	9
3.3.1	伊賀への愛着と誇りの醸成	9
3.3.2	その他の副次的効果	9
4	今後への示唆・課題	10
4.1	コンテンツ企画	10
4.2	コンテンツ事前準備・調整	10
4.3	コンテンツの検証	10
5	参考（アンケート結果より）	11
5.1	問1の具体的な理由	11
5.2	問2で得られた主な回答	13
5.3	問4の具体的な考え	14
5.4	問5の具体的な理由	15

# 1 パイロット事業の概要

## 1.1 パイロット事業実施の目的

平成 28 年度「U ターンを視野に入れた IGAMONO（伊賀者）育成促進事業」において考案した育成コンテンツ案のうち 1 つを実施することで、その効果の有無を試験的に検証するとともに、育成コンテンツ案をより効果的かつ効率的な内容へ改善するための示唆を得る。

また、「IGABITO（伊賀びと）育成ビジョン（案）」の「育成コンテンツの実施方針」に記される、企画から効果検証の一連のプロセスに沿ってコンテンツを実施することにより、今後生じうる問題等を把握し、「育成コンテンツの実施方針」に有用なフィードバックを行う。

## 1.2 パイロット事業選定の背景

これからの地域の担い手となる若者たちが、大学進学等により一度市外へ転出した後も、将来的に U ターンを志向するためには、伊賀をよく知り、好きになって、伊賀へ貢献したいと思う気持ち、いわゆる郷土愛の醸成が重要となる。郷土愛の醸成にあたっては、伊賀の歴史・文化をはじめとする、伊賀の郷土にまつわる知識力の向上が有効であると推察される。

伊賀学検定は、「芭蕉・城・忍術・祭・文化財・歴史・文学・自然・生活文化・雑学等『伊賀』に関する事柄全般」を検定内容としており、その受検により伊賀の郷土にまつわる知識を効果的、効率的に得ることが可能である。

以上のことより、今回、将来の地域の担い手となる高校生を対象に「伊賀学検定の受験を通して、伊賀の歴史、文化、雑学等を学ぶ」事業をパイロット事業として選定し、下記の通り実施した。

## 1.3 実施概要

- 対象：三重県立上野高等学校 普通科 1 年生 約 280 名
- 内容：第 12 回伊賀学検定受験、受験後のアンケート調査
- 日時：平成 29 年 2 月 22 日(水) 14:20～15:10
- 場所：上野高等学校

## 2 実施に向けた準備・調整

### 2.1 パイロット事業の企画

三重県立上野高等学校において高校 1 年生を対象に実施する「伊賀学検定」初級受験の取組みをパイロット事業として実施した。

本パイロット事業の実施主体である県立上野高等学校では、高校一年生を対象とした総合的な学習の時間において、地域を支え、地域の発展に貢献する人材を育成する「地域貢献夢プログラム」を実施している。上野高等学校内の総合的な学習の時間研究委員会において、伊賀の地域資源・文化への知識を深め、伊賀への誇りを醸成する観点から、「伊賀学検定」の初級受験をプログラムの一環として検討しており、今回パイロット事業として実施することに協力いただいた。

### 2.2 パイロット事業の事前準備・調整

本パイロット事業の実施においては上野高等学校が主体となり、伊賀学検定主催元の上野商工会議所との調整を行った。本調整により、上野高等学校内での受験対策セミナーの開催、および一般受検者向けの伊賀学検定とは異なる日程・会場及び設問内容での検定実施が可能となった。

なお、受託者であるデロイト トーマツ コンサルティング合同会社は、上野高等学校に対して本事業及びパイロット事業の趣旨説明を行った他、事業の効果検証のためのアンケートの作成および集計、上野商工会議所への経費支払に係る調整・手続きを実施した。

### 2.3 市内外への PR

パイロット事業実施にあたっては、各メディアへの情報提供を行い、市内外への PR を実施した。

#### 【毎日新聞 2017 年 1 月 26 日（地方版）より抜粋】

伊賀のご当地検定「第 12 回伊賀学検定」が 2 月 19 日、ハイトピア伊賀（伊賀市上野丸之内）と県のアンテナショップ「三重テラス」（東京・日本橋）で実施される。昨年は上級の合格率がはね上がった。今年は別の日に、初級にあたる「高校検定」を初めて行い、県立上野高普通科 1 年生（約 280 人）が同校でチャレンジする。検定実施委は「裾野を広げたい」と話している。

#### 【中日新聞 2017 年 2 月 24 日より抜粋】

伊賀市上野丸之内の上野高校では、総合学習で初めて伊賀学検定初級を実施し、一年生二百八十人が真剣な表情で解答用紙に向かった＝写真。忍者や忍術問題も出題された。

受験後、●●さん（16）＝名張市百合が丘＝は「いつも通学で乗っている伊賀鉄道の問題もあったが、難しかった。もっと伊賀のことを知りたいと思った」と振り返った。

同校では、地域に貢献する人材を育成しようと、昨年四月から総合学習で、上野天神祭に参加したり、伊賀米生産者を訪問したりしてきた。伊賀学検定は本年度の集大成。市は生徒にアンケートをとり、次年度からの U ターン者育成事業としても検討している。

### 3 事業効果の検証

#### 3.1 当初の期待効果

期待効果は下記のように設定し、アンケートの設問を検討した。

##### 3.1.1 伊賀への愛着と誇りの醸成

「伊賀学検定」の受検やそのための事前学習を通し、受検後に「伊賀への愛着」や「伊賀への誇り」が醸成されることを、期待効果として設定した。

##### 3.1.2 その他の副次的効果

上記の他、「地域や社会に貢献したいという気持ちになった」、「知り得た情報を人に伝えていきたいと思うようになった」等、郷土教育による学びが次なる行動の動機づけとなることを副次的効果として想定した。

#### 3.2 効果測定の方法とその結果

上記の事業効果を検証するため、今回の事業の対象者である上野高等学校 1 年生に対し、受検後に下記 5 つの設問から成るアンケートを実施した。



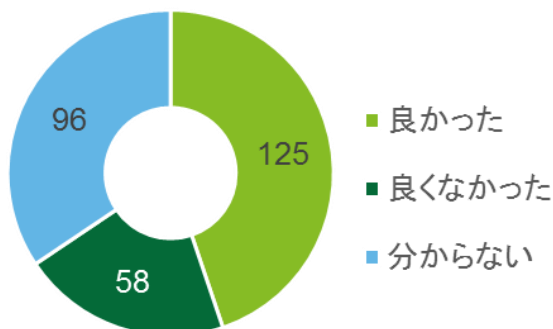
##### パイロット事業アンケートの設問内容

- 問1. 伊賀学検定を受検して良かったと思いますか。また、その理由を教えてください。
- 問2. 回答するときに、受験勉強(事前講義や模擬試験など)以外で、「参考になった」「役に立った」と思ったことがあれば教えてください。
- 問3. 本日は「伊賀学検定 初級」を受検しましたが、今後、中級・上級を受検したいと考えますか。
- 問4. 伊賀学検定を受検する前と、受検した後で何か変化がありましたか。当てはまるもの全てに○をつけてください。また、○をつけた各項目について、具体的な考えを記述してください。
- 問5. これからも、伊賀に住み続けたいですか。その理由と、影響を受けたものや出来事を教えてください。

各設問に対する回答は、次ページ以降順に示す。

問1. 伊賀学検定を受検して良かったと思いますか。また、その理由を教えてください。

## 1 伊賀学検定を受検して良かったか



※回答者数279、単一回答

【具体的な理由（一部抜粋）（詳細は p.11～12）】



良かった

- ・ 伊賀のことがより深く知れて、家族にも教えることができた
- ・ 全く知らない場所・人物・行事の存在が知ることができた
- ・ 地域のことをどれだけ知っているか試すのに良い機会だった



良くなかった

- ・ 隔週テストと日がかぶっていたうえ、テスト期間が近かったから
- ・ お金が高かった。将来役に立つのか疑問
- ・ 今ある物と関連付けていない。単なる過去を学ぶのは興味がない



分からない

- ・ 他の勉強に力を入れたので、勉強できなかった
- ・ 伊賀について知ることは良いが時期が時期だけに微妙だった
- ・ 受験する意味をあまり感じられなかった

※ 「良くなかった」理由としては主に、通常の勉強との両立が難しい、受験の理由・意味が分からない、問題がマニアックであること、「分からない」理由としては、受験の理由・意味が分からない、実施時期が不適切である、役に立つのかまだ分からない、メリットもデメリットもあるという内容のコメントが寄せられた。

問2. 回答するとき、受験勉強（事前講義や模擬試験など）以外で、「参考になった」「役に立った」と思ったことがあれば教えてください。

## 2 事前講義/模擬試験以外で、回答時「参考になった」こと



- ・ 父とかに教えてもらった。小学校のときに古墳を見学に行ったこと。

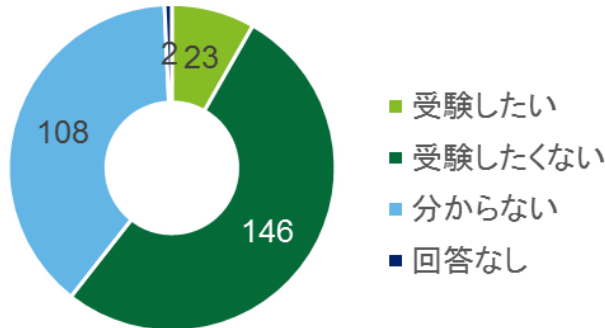
- ・ 学校の未来学で“松尾芭蕉”について夏から秋にかけてずっと調べていたので、芭蕉関係のことに親しみをもて、テストにも答えられるようになった



- ・ おばあちゃんがよくやっていたことが、伊賀の伝統であったこと

問3.本日は「伊賀学検定 初級」を受検しましたが、今後、中級・上級を受検したいと考えますか。

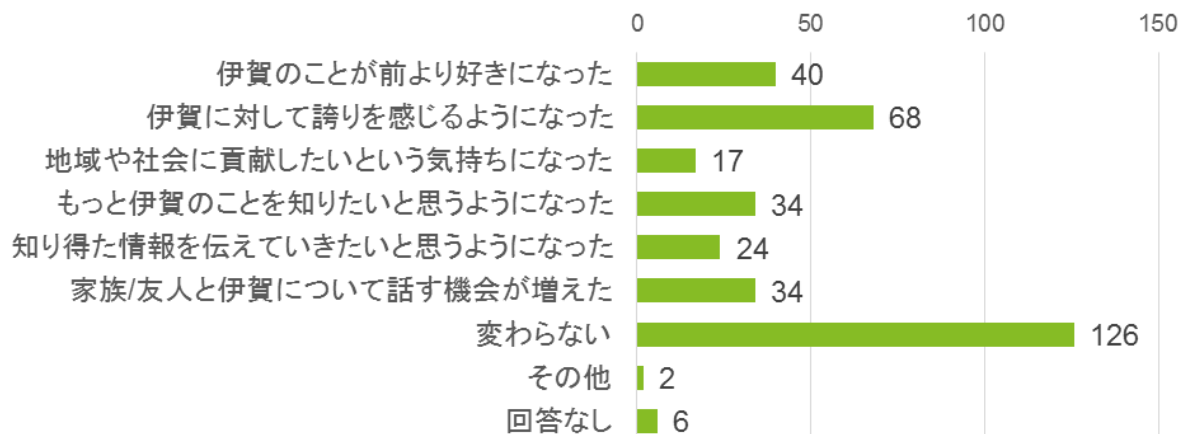
3 伊賀学検定 中級・上級の受検意欲



※回答者数279、単一回答

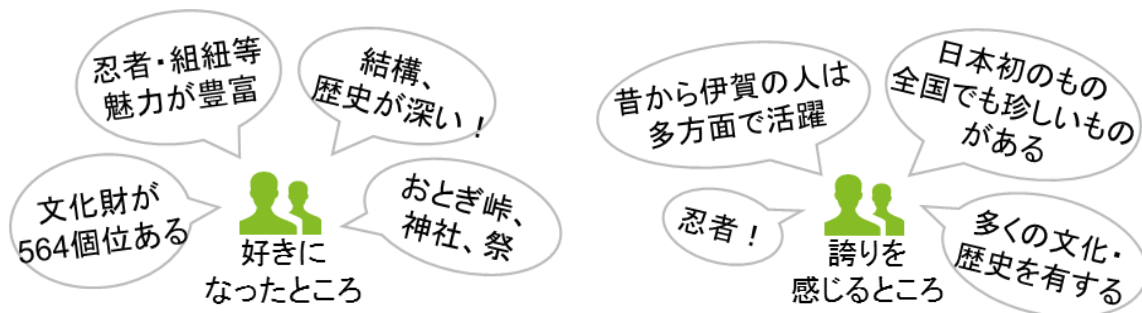
問4. 伊賀学検定を受検する前と、受検した後で何か変化がありましたか。当てはまるもの全てに○をつけてください。また、○をつけた各項目について、具体的な考えを記述してください。

4 伊賀学検定を受検したことによる変化



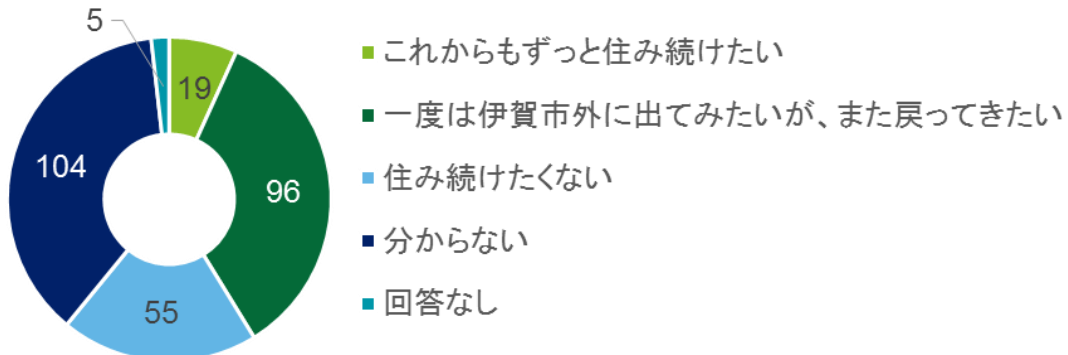
※回答者数279、複数回答

【具体的な考え（一部抜粋）（詳細は p.14）】



問5. これからも、伊賀に住み続けたいですか。その理由と、影響を受けたものや出来事を教えてください。

## 5 定住・Uターンに関する現在の意向・考え



※回答者数279、単一回答

【具体的な理由や影響を受けたもの（一部抜粋）（詳細は p.15）】



定住志向

- 地元就職したいから。兄弟もそうだから。
- 生まれてからずっと住んでいるこの地域に愛着を持っているから。
- 天神祭に参加し続けたいから。
- 伊賀の文化の素晴らしさに気付いたから。



Uターン志向

- 一度出てたくさん見て学んで戻ってきたいから。
- 行きたい大学が伊賀にないから。伊賀に住みなれているから。
- 一度は都会の生活を経験してみたい。
- 大手で就職したいから。



移住志向

- いろいろな人に出会いたいし、吸収したいから
- 他の地域の文化を知りたい。大きな都市の方がたくさん影響を自分自身にあたえてくれそう。
- 伊賀のことをもっと知りたいけれど、違う世界も味わってみたい



未定

- 伊賀市外に出てみたかったが、色々なことを知るうちに住み続けたいと思うようになったから。
- 大学に行きたいが、自分の家が楽で、好きなので通いたいと思う。だが、その先はどうなるのかまだ分からない。



### 3.3 効果の検証

#### 3.3.1 伊賀への愛着と誇りの醸成

伊賀学検定受験を通して、約 14%の生徒(279 名中 40 名)が「伊賀のことが前より好きになった」、約 25%の生徒(279 名中 68 名)が「伊賀に対して誇りを感じるようになった」と回答している(p.7)。なお、そのうち 11 名の生徒は「伊賀のことが前より好きになった」とともに「伊賀に対して誇りを感じるようになった」と回答しているため、重複を除くと以前より「伊賀への愛着」や「伊賀への誇り」が増したと感じた生徒は全体の約 35% (279 名中 97 名) いたことが分かる。

以上のことより、今回のパイロット事業は「伊賀への愛着」や「伊賀への誇り」の醸成に一定の効果が認められたものの、必ずしも全ての対象者の「伊賀への愛着」や「伊賀への誇り」を増進させるには至っていないため、企画や事前準備・調整について今後検討の余地があると思われる。

#### 3.3.2 その他の副次的効果

伊賀学検定受験を通して、「地域や社会に貢献したいという気持ちになった」(279 名中 17 名)、「もっと伊賀のことを知りたいと思うようになった」(279 名中 34 名)、「知り得た情報を伝えていきたいと思うようになった」(279 名中 24 名)、「家族/友人と伊賀について話す機会が増えた」(279 名中 34 名)と回答した生徒が一定数存在する(p.7)。ただし、約 45% (279 名中 126 名) の生徒は、伊賀学検定の受験前後での気持ちの変化はなかったと回答している(p.7)。

以上のことより、今回のパイロット事業は、一部期待通りの効果が認められたものの、約 45%の生徒には期待効果が現れなかったことから、事業効果を高めるためには、企画や事前準備・調整について今後検討の余地があると思われる。

## 4 今後への示唆・課題

### 4.1 コンテンツ企画

➤ **高校生に対して郷土教育を提供する際は、学習意欲を高める取組みを併せて行う**

今回、伊賀学検定を受検して良かったと思わない、もしくは受検して良かったか分からない理由として、受検の理由・意味が分からないこと（p.6）が多く挙げられていた。高校生に対する郷土教育においては、学びの意味や有用性を事前に考える機会を設けることで、より学習意欲が高まり、事業効果も向上すると思われる。また、「今ある物と関連付けていない。単なる過去を学ぶのは興味がない」（p.6）という意見もあったことから、今後、伊賀の「今」を学ぶという視点を含んだ、生徒のニーズ・関心に沿う内容を検討できると良い。上野高等学校からも「生徒に興味を持たせ、知識をつけたいという気持ちを高めること」に引き続き努めると伺っている。

➤ **伊賀学検定を郷土教育コンテンツとして利用する場合、初級が適切であると思われる**

伊賀学検定初級に関しては、「全く知らない場所・人物・行事の存在を知ることができた」（p.6）という感想もあり、伊賀への愛着や誇りの醸成に一定の効果をもつ郷土教育コンテンツであるといえる。一方で、マニアックな内容という印象をもつ生徒もおり、中級・上級の受検希望者もあまり多くない（p.7）ことから、郷土教育コンテンツとしては初級の利用が適切であると推察される。

➤ **事業効果を妨げないよう、実施時期を適切に設定する**

対象者が最も抵抗感なく参加が可能な時期を検討する必要がある。今回は、高校で実施している隔週テストと同日で、かつ定期テスト前という日程であったため、「伊賀について知ることは良いが時期が時期だけに微妙だった」（p.6）という意見があがった。学習に意欲的な生徒であっても、思うように伊賀学検定のために時間を割くことができず、事業効果を一部妨げてしまった可能性がある。

### 4.2 コンテンツ事前準備・調整

➤ **趣旨に賛同する市内の事業者・団体との適切な連携により、より良い運営ができる**

コンテンツの実施に当たっては、市内の事業者・団体と適切に連携することで、事業が実現する。今回のパイロット事業実施に当たっては、「受検者の裾野を広げたい」（p.4）という伊賀学検定実施委員会の思惑と合致したために、高校内での受検対策セミナーの実施や日程・会場に配慮した形での伊賀学検定受検が可能となった。

### 4.3 コンテンツの検証

➤ **コンテンツ改善のアイデアを得るため、可能な範囲で利用者からフィードバックを収集する**

単に効果を測定するだけでなく、コンテンツの対象者から改善のフィードバックが得られるような設問の設定が重要である。今回は自由回答の設問も多く、様々な意見を収集することができた。

➤ **効果が現れなかった対象者の分析に用いるため、属性情報等を可能な限り収集する**

期待効果が現れなかった対象者に対してのアプローチを策定するためには、その後の分析が必要となる。次年度以降、効果が現れづらい理由・条件に関して仮説を立てた上で設問を用意し、効果が現れづらい人の属性（伊賀市在住の有無、出身地域など）・理由を特定できると良い。

## 5 参考（アンケート結果より）

### 5.1 問1の具体的な理由

（問1「伊賀学検定を受検して良かったと思いますか。また、その理由を教えてください。」）



#### 伊賀学検定を受検して良かったと思う

##### <理由①: 良い契機となった>

- ・ 伊賀のことを知ろうとするきっかけになった。
- ・ 伊賀について考える機会になったから。
- ・ 伊賀の歴史にふれる良い機会になった。
- ・ 地域のことをどれだけ知っているか試すのに良い機会だった。

##### <理由②: 伊賀について知識が増えた>

- ・ 伊賀についての知識がついたから。
- ・ 勉強していく中で地元の知らないところを知ることができた。
- ・ 全く知らない場所・人物・行事の存在が知ることができた。
- ・ 伊賀市について初めて知れたことがたくさんあったから。

##### <理由③: その他>

- ・ 伊賀を知らないという自分を発見できたから。
- ・ 伊賀のことがより深く知れて、家族にも教えることができたから。
- ・ 知っていた「つもり」ではいけないことを思い知った。
- ・ 伊賀について広い知識が得られ関心が持てた。



#### 伊賀学検定を受検して良かったとは思わない

##### <理由①: 通常の勉強との両立が難しい>

- ・ 隔週テストと日がかぶっていたうえ、テスト期間が近かったから。
- ・ 普段の勉強と平行して伊賀学は無理。

##### <理由②: 受検の理由・意味が分からない>

- ・ 時間とお金の無駄。受ける意味が分からない。
- ・ 受験したことで得たと思うものが特になから。

##### <理由③: 問題がマニアックである>

- ・ ディープすぎた。
- ・ 自分たちの住んでいる地域のことを知ってもらいたいということは伝わったが、問題がマニアックすぎる。
- ・ 初級にしてはけっこう難しかった。

##### <理由④: その他>

- ・ 身にならない。強制でやることじゃない。
- ・ 将来役に立つのか疑問。
- ・ 今ある物と関連付けていない。単なる過去を学ぶのは興味がない。



## 伊賀学検定を受検して良かったか分からない

## &lt;理由①:受検の理由・意味が分からない&gt;

- ・ 別に必要でもないと思うから。受験をした理由が知りたい。
- ・ 何故受験しなければならないのかわからない。
- ・ 何故受けたのかいまいち分からないが、そこそこ楽しめたから。
- ・ 進学に関係ない。

## &lt;理由②:実施時期が不適切である&gt;

- ・ テスト2週間前や隔週テストとかぶるのはダメ。かぶっていなかったら伊賀学検定の勉強ができた。
- ・ 伊賀について知ることは良いが時期が時期だけに微妙だった。

## &lt;理由③:役に立つのかまだ分からない&gt;

- ・ 将来に役立つのかわからないから。
- ・ 伊賀を知るきっかけにはなったが、いつ発揮する機会があるのかなと思った。
- ・ 自分の意志で受けておらず、今後役に立つのかわからないから。

## &lt;理由④:メリットもデメリットもある&gt;

- ・ 伊賀のことを知れて良かったが、少し面倒くさかったから。
- ・ 伊賀について知るのは良いが、検定を受けるほどではない。

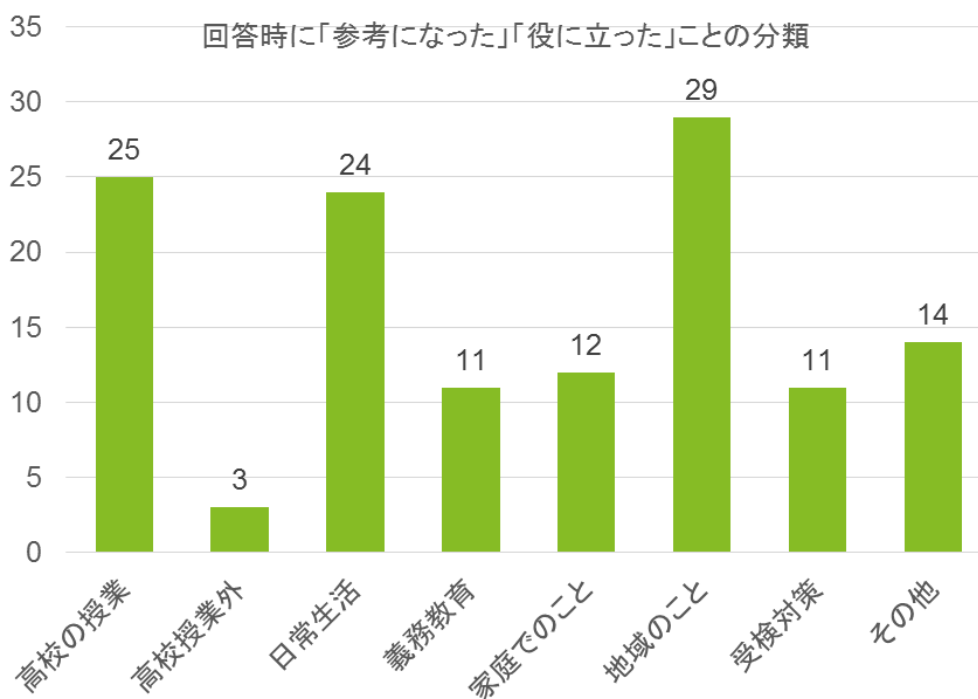
## &lt;理由⑤:その他&gt;

- ・ 名張住みの自分が受ける意味が分からなかったから。
- ・ お金をかけるなら希望者だけの受験でも良かったと思うから。
- ・ 身近な地域について知ることは大切だと思うが、興味がないから。
- ・ 強制的に上高生だけに受けさせて良いのかわからない。
- ・ 受けて何かが変わった気がしないから。

## 5.2 問2で得られた主な回答

問2「回答するときに、受験勉強（事前講義や模擬試験など）以外で、「参考になった」「役に立った」と思ったことがあれば教えてください。」

高校の授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の未来学で“松尾芭蕉”について夏から秋にかけてずっと調べていたの で、芭蕉関係のことに親しみをもて、テストにも答えられるようになった。</li> <li>みらい学で行ったフィールドワークや図書館で調べる学習など。</li> </ul>
高校の授業外	<ul style="list-style-type: none"> <li>おとぎ峠を部活で走ったことでなじみがあって回答に役立った。</li> <li>明治校舎で部活をしているので。</li> </ul>
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビで君の名はの組ひものことを言っていて、それが出ていて役に立った。</li> <li>推理小説についての本を読んだことがあり、江戸川乱歩についての問題の 内容を覚えていた。</li> </ul>
義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の頃、東御旅所に行き話を聞いたこと。</li> <li>中学生の時の夏休みにやった調べ学習。</li> <li>小中学校の時に伊賀についての講演を聞いたことを思い出した。</li> </ul>
家庭でのこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>父と伊賀に関することをよく話したこと。</li> <li>親と検定について話すこともあり、教えてもらった話。</li> <li>おばあちゃんがよくやっていたことが、伊賀の伝統であったこと。</li> </ul>
地域のこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の祭りに参加することで、山田の「植木神社」での問題をこたえるうえで 役に立った。</li> <li>小学1年生のころから中学3年生までだんじりに乗っていたこと</li> </ul>



※有効回答数116、複数回答

### 5.3 問4の具体的な考え

問4「伊賀学検定を受検する前と、受検した後で何か変化がありましたか。当てはまるもの全てに○をつけてください。また、○をつけた各項目について、具体的な考えを記述してください。」



好きになつたところ

- 有名な人や物がたくさんあって歴史も深い！
- 忍者や組紐など、思っていたより面白いもの、たくさんの魅力があった。
- おとぎ峠や、伊賀の神社、祭。
- 昔から歴史があるところ、芸術家がたくさんいるところ。文化財は564個位ある。
- 歴史の中で伊賀の果たす役割が大きいところ。



誇りを感じる

- 日本初や全国でも珍しいことが多い。
- 全国的に有名な人物や物がたくさんあること。
- だんじり行事がユネスコに登録。
- 忍者が大活躍したこと。
- 自分が素晴らしいところに住んでいるということ。
- 日本で誇れるような功績を遺した人がいっぱいいる。



どのように貢献したいか

- 伊賀学での学びを周りに伝える。
- 貢献できるような職につくこと。
- 祭などいろいろなことに参加し、地域活性化に貢献する。
- 社会人になったとき伊賀で働きたい。



もっと知りたいところ

- 最近の伊賀の課題。
- 地域の文化や伝統、行事。伝統の行事の元になった歴史など。
- 建築物や文化と人との関わりについて。
- 上野高校の昔のこと。
- 芸能文化(祭りや音楽に関すること)。



人に伝えたいもの

- 伊賀出身のアーティストなど。
- 伊賀の意外な歴史の特徴。
- 芭蕉のこと。
- 忍者の知識。
- 学んだ場所を親に伝えたい。



家族や友人と話したこと

- 公園の場所や、自分が住んでいる周辺のことについて。
- いがぐりお。芭蕉や忍者のこと。
- 伊賀についてはじめて知ったこと。
- 伊賀にある銅像の作者(上野市駅前)。
- 何故伊賀検定をするのか。



その他

- 正直、伊賀がどうであってもよい。

## 5.4 問5の具体的な理由

問5「これからも、伊賀に住み続けたいですか。その理由と、影響を受けたものや出来事を教えてください。」



### 定住志向

- 地元就職したいから。兄弟もそうだから。
- 発展しすぎず、発展しなさすぎず、住むのにちょうどいい感じの街並で、地元にいるのがおちつくから。
- 伊賀に愛着を感じたから。(影響を受けたもの: 職場体験)
- 伊賀でしたい仕事があるから。
- 地元企業に就職したいから。地元に貢献したい。
- 生まれてからずっと住んでいるこの地域に愛着を持っているから。



### Uターン志向

- 一度は伊賀以外のところに住んでみたいから。
- また戻ってきたときに、今まで知らなかったことが知ることができると思うから。
- 都会に行きたいが伊賀も文化などで有名で好きだから。
- 一度広い世界を見たい。
- 実際にそういう人にあつたから。
- 大手で就職したい気持ちもあるが、伊賀の街並みが好き。
- 行きたい大学が伊賀にないから。伊賀に住みなれているから。
- 自分の行きたい大学が伊賀にはないので、1度出るが、祖母や祖父がずっと伊賀にいたので、いつかは帰ると思う。
- 地域の人の方が優しくったりすることから伊賀が好きなので。



### 移住志向

- 伊賀は狭いし都会に出てやりたいことが山ほどあるから。
- 色々なところに行きたい。テレビを見て他の地域で暮らしてみたいと思ったから。
- 製薬会社の研究職に就きたいから。自分が以前、喘息を持っていたので、そのような辛い思いを他の人にして欲しくないと考えて、進路を選択した。
- 自分のしたいことをできる環境で生きたいから。
- 行きたい所が少し遠くて不便だから。職に就くにはもう少し都会が良い。
- 特に住んでいてメリットがあるとは思えないから。就職先があまりない。
- 行きたい大学や働きたい会社が伊賀にはないから。
- 他の地域の文化を知りたい。都会に行きたい。大きな都市の方がたくさん影響を自分自身にあたえてくれそう。



### 未定

- 伊賀ではなく名張に住んでいるから。少しは住んでみたいとも思った。
- 三重県の大学に進学したいが、未だちゃんとしたビジョンが立っていないし伊賀に戻りたいと現時点では思っていないから。
- これからの未来、どうなるか分からない。伊賀に住みつづける利点がでてこない。
- 行きたい大学・なりたい職業で決めたいと思うから。
- 大学に行きたいけど、自分の家が楽し、好きだから通いたいと思う。でも、その先はどうなるのかまだ分からない。
- 一度都会で生活してみたい。一人暮らしをしてみたい。